

国立大学法人長岡技術科学大学
令和6年度第1回経営協議会議事要旨

日時 令和6年4月26日（金）14時00分～15時05分

場所 長岡技術科学大学事務局第1会議室及びZoomミーティングによるハイブリッド会議

出席者 鎌土議長、天羽委員、荒木委員、角田委員、合田委員、関委員、谷口委員、Tran委員、西岡委員、和田委員、梅田委員、佐藤委員、武田委員、高橋委員、井原委員、高見委員
（議事の表決委任による出席：池田委員、磯田委員 欠席者：吉田委員）

陪席 日下部監事、大塚附属図書館長

事務局 地域協創統括監、事務局次長（総務担当）、監査室長、企画・広報室長、総務課参事、総務課専門員、総務課総務係員（古川、速水）

配付資料

令和5年度第5回経営協議会議事要旨（案）

資料1 学長選考・監察会議構成員の選出について

資料2 日本定着型留学生受入増について

議事に先立ち、令和5年度第5回経営協議会議事要旨（案）について説明があり、案のとおり承認した。

【審議事項】

1. 学長選考・監察会議構成員の選出について

議長から、資料1に基づき説明があり、審議の結果、天羽委員、荒木委員、角田委員、谷口委員、西岡委員を学長選考・監察会議に選出した。

主な質疑応答は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）。

○天羽委員に強いリーダーシップをとっていただきたい。

○荒木委員、谷口委員に引き続いて、委員を行っていただきたい。

○昨年度までの学長選考・監察会議では、荒木委員、角田委員、谷口委員、天羽委員が学外委員を務めており、今年度は学長選考もあるため、継続性の観点から引き続きこの4人を委員に推薦する。また同じ工学系大学の西岡委員を推薦する。

【意見交換】

日本定着型留学生受入増について

議長から、資料2に基づき未来を創造する若者留学促進イニシアティブ（第二次提言）について説明があり、企業・大学・高専等での取組や戦略について意見交換を行った。

主な意見（質疑応答）は以下のとおり（○：学外委員からの質問、意見等 ●：大学からの回答）。

○優秀な方を日本に招くだけでなく、出身国の発展も一緒に行い、その方に日本と相手国の懸け橋になっていただくという観点が大切である。

●マネジメントしながら、その国との間で懸け橋となってくれる人材を育成するということを考えている。その国の地域課題や地球規模の課題についても共に解決していきたいと思う。日本のモデルケースを海外に持っていき、良いモデルケースを日本に持ち込んでいただくという関係性を築きたい。

○日本の技術を海外に移植するということも含めて考えていけたら良い。

○学習サポートとしては、言語の違いだけでなく、文化や考え方の違い、コミュニケーションの仕方を伝えることが大切である。また、ダイバーシティの文化が根付いている日本企業

は少ない。就職サポートの教員や職員は企業の文化（ダイバーシティ）等を確認しながら、丁寧にサポートしていかないと定着は難しい。

- 倫理教育は日本語教育と同時に進める計画。日本で生活する為に必要な支援を行っていききたい。
- 以前とは異なるPC技術が進み、AIがひとつのキーワードになると思うが、それを使用してプログラムに活かしている等があれば教えてほしい。
- 日本語教育に関して、ChatGPT等を使用した教育方法については、現在テストで作っている状態。留学生等に展開していくのはこれからである。
- 将来的に人口が減っていく中、海外の方という選択肢は、中小企業にとっても大きくなっている。海外の方の採用に興味がある会社は多いが、どのように受け入れるのかの問題やエンジニアやマネジメントの候補としての採用等、躊躇する部分があると聞いている。学校側の教育も必要だが、受入れ側の教育も必要だと感じる。興味のある企業に対して、意見交換の場を提供することで、受け皿を増やすきっかけになるかもしれない。
- 企業との連携・協働教育等、また、大学院に進むと様々な形で共同研究等も行うが、その中で地域課題解決も今後プログラム化したいと考えているところである。前以って企業との意見交換を行っていききたい。
- 多様性が非常に重要になってきているが、多様性の中から何を生み出すのかは課題だと思う。留学生が日本文化を取り入れるという面もあるが、受け入れる側も違う文化を受入れるということを促進する必要がある。
- 海外の方向けに本学に来たらどのようないいことがあるのか、どのような教員がいるのか等、魅力を発信することが大切だろう。また、技術面や生活面も含めて面倒を見ることで日本に残る学生が増えると思う。既に日本に定着する学生も多いようなので、ベースはある。本学の強みを更にクリアにしていくことが大切だと感じる。
- コミュニティを作るとき、どのようにしたら多様性を活用できるのか考えていきたい。コミュニティを作ったときに必ず多様性を生み出して、イノベーションを起こせるような環境にしていかなければと思う。
- 男女のダイバーシティとしては、海外では30%という数字がある。少ないとマイノリティになってしまい、意見が出しづらく、30%程度になると意見が言いやすいと言われている。

次回は、6月24日（月）に長岡で開催することとし、詳細については、後日、事務局から委員に案内することとした。

以 上